



おねんきだより

平成29年10月16日(月) NO. 4

「希望が丘こども園参観と語る会」報告

8月25日(金)に、希望が丘こども園を会場に、「園参観と語る会」が開催されました。「子どもを型にはめず、自由にのびのびと一人一人の個性を大切に育む」という考えのもと、恵まれた環境の中で、子どもたちがダンボールを使ってのダイナミックな創作活動をする姿が印象的でした。また、希望が丘こども園では、幼児教育の場としてだけではなく幼児教育センターとしての役割を担うために、いろいろな活動の場を提供しています。今回は、園から徒歩5分にある希望が丘児童クラブ・子育て支援センターも見学させていただきました。

参加者の声

○参観について

- ・「ダンボール遊び」では、時間をたっぷりかけてダイナミックな活動をしている姿が見られ、自分の園でもぜひ取り入れてみたいと思った。(こども園)
- ・最近では、外で思いきり遊んだり農作物を育てたりする経験が少なくなっていると感じる。園では、家庭ではできない体験をたくさんしているので、素晴らしいと思った。経験を積んでいる子は、自ら学ぼうとする意欲がとても高いと感じる。(小学校)
- ・児童クラブ・支援センターの自然環境がとても素敵だった。子どもを預けながら子育ての悩み相談にのっていただくこともできるので、親子ともに利用できる施設と思う。今後の参考になると思い、長期休業中の利用法など、教えていただいた。(中学校)



○「語る会」について

- ・小学校への接続に大きな段差があることがよくわかった。小学校はやることが多く、先生にも余裕がないように感じる。今後も、語る会のように情報交換の場がとても必要であると思った。(保育園)
- ・小学校では、「教えなければ」という意識が強くなってしまいうため、45分の中でつめこもうとしてしまう部分がある。園のように、遊びの中から学びにつなげていけるような授業展開を考えていきたい。(小学校)



生きる力を育む、切れ目のない発達支援に向けて

～幼保連携型こども園 明照保育園の取り組み～

お兄さん・お姉さんを
「目標」にする
園児たち



★小学生との交流★

年長児たちは、入学直前に牟呂小1年の教室に出かけ、昔の遊びを教えてもらったり一緒に遊んだりして、小学校でのひとときを過ごすことができました。

汐田小5・6年生とは、一緒に地域の公園の清掃をしたり、園で遊んだりしました。この間までかわいい園児だった子が張り切って年下の子に教えている姿は、保育者からはほほえましく、園児には頼りがいのある存在となっているようでした。

園児への世話を通して育まれる
「思いやりと自立心」

★牟呂中学生との交流★

200人を超える牟呂中3年生との数日間の交流は、20年近く続いております。半分大人で半分子どもであるこの時期に、自分の思い通りにならない園児と関わることで、自分が小さかった頃を思い出し、幼い子への愛しみや責任感をもつことができました。中学の先生は、園児と関わる生徒の姿を見て「この子のこんな笑顔は初めて見た」と言われることもあります。地域での縦の交わりが少なくなっている昨今、中学生にとって、小さな子との関わりは、自分の存在を確認する貴重な機会ともなっています。

★学童との交流★

園児と園に併設されている児童クラブの小学生とは、日頃から交流が盛んで、特に夏休みの間はふれあう時間も長くなります。赤ちゃんの世話や保育者の手伝いをする小学生の様子を見て、園児たちは「いつかは自分もそんな小学生になりたい」とあこがれを抱いています。



★麦笛・グリーンルーム生との交流★

生徒たちは、はじめは緊張感があったものの、引率された先生が園児と楽しく関わる姿に刺激を受けて徐々に打ち解け、園児からのひっきりなしの誘いに、きらきらとした真面目さで応じていました。汗をかきながら園児と遊んだり世話をしたりして、帰る時には、毎回何ともいえない笑顔を見せていました。

★今こそ、よりよい生き方の土台を作る「乳幼児教育・保育からの連携」を★

子ども同士が交流している場では、必ず、先生同士も顔の見える交流がなされており、それこそが何よりも、別々の場所で生活する子どもたちがつながり、安心して力を発揮するきっかけとなっていることを実感します。

平成30年度より実施される保育園・幼稚園・こども園の指針・要領にある『幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿』が、小中学校で追求される『よりよい生き方』の土台となり、この交流活動をきっかけにさらに連携が深まることを期待しています。今後、教師と保育者によるアプローチ&スタートを含めた「ジョイントカリキュラム」作りを共同で手がけていけたらと願っています。

文責：明照保育園 副園長 中島 美奈子